

間違いに気づく

地図を見ながら歩く

武甲山

1304・△1295.4

975

1088

2人で登山。なぜか尾根を直進せず、西側のルートへ道迷い。途中で気づき地図を見ながらルートを復帰した。





武甲山を後に小持山へむかうが、何を考えていたか（何も考えていなかったが）3本ある道の右側を降りてしまった。紅葉の美しさに見とれ、写真を撮りながら、長者の屋敷の頭（シラジクボ方面への分岐）にきて初めて道を間違えていたことに気づく。

さて、そこからが大変。分岐からシラジクボへ向かうが、あまり人が通らないようで、道は崩れているし、トレースが見えなくなってどこを進めば良いのか困ってしまった。幸い、2万5000分の1の地図とコンパスを持っていたのでそれを確認しながら進む。いやあ、地図読みは大切です。もしなかったら、あるいは地図が読めなかったらそれこそ「道迷い遭難」だったかも・・・（HP参照）

武甲山から小持山へのルートは南方向に一直線の尾根を進むだけなのだが、道迷いは発生してしまう。本人が言われているように「何も考えずに進んでしまった」パターンである。周りの景色に気をとられ、何も考えていない行動が一番やってはいけない行動である。

登山で道に迷わない方法。それは、「地図の先読みをすること」に尽きるだろう。道に迷って不安になり、『根拠なく進む』行動は、遭難への近道と思ってほしい。今回の事例は読図ができる方だったので大事には至らなかった。ピークからの下りは道迷いが多いので注意してほしい。